

## 福野夜高祭

福野夜高祭は、福野神明社の春の例祭の一環で行われる夜の祝祭です。この神社は、江戸時代（1603–1867）初期の1652年に建てられました。建立時には、伊勢神宮（三重県伊勢市）の守護神が分霊され、ここに祀られるようになりました。この神は夜に到着したと言われていたので、道しるべのため、そして神への敬意を示すため、提灯が使われました。こうして神を迎え入れたことに、この祭りの起源があります。今では毎年5月1日と2日に南砺市の福野地域周辺で行われています。この祭りは、1日目の夜に行燈（大きな紙の提灯）の行列が福野の通りを練り歩くのが見どころであることから、一部の人々の間では紙提灯行列祭としても知られています。

行列は、日没から深夜まで続き、太鼓を叩く音、尺八の音楽が響き渡り、また祭りの参加者は何度も「よいあさ、よいあさ」という掛け声をあげたり、伝統的な民謡の夜高節を歌ったりします。約20の紙の山車が福野を通り、その大きさは様々で、うち7つは6.5メートルもの高さの大提灯となっています。これらの大きな紙提灯は、福野の特定の7地区のもので、祭りの1日目の行列は、戦いが始まる前に各山車の芸術性を競う場ともなっています。この戦いは「引き合い」とも呼ばれており、祭りのクライマックスで見どころの1つとなっています。戦いは、祭りの2日目の夜遅くに行われます。提灯が町を目抜き通りに運ばれ、他の提灯の装飾を破壊するエネルギーパフォーマンส์が行われるのです。祝祭後の5月3日には、4つの異なる地区からの曳山が市の中心部を巡行し、その後神明社に向かいます。